

4月9日(火)

私たちは無力でも絶望的でもありません

聖書朗読 ハバクク書 1:1~4

神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。

ローマ 8:28

銃犯罪のニュースを聞くと本当に心が痛みます。どうしてそんなことをする人がいるのか、理解に苦しみます。若い人たちが「なぜ神様はこんなことが起こるのを許されるのですか。どうして、こんなことが起きるのですか。」と言うのを聞くと、自分の無力さを感じたり、ときには絶望的な気持ちになり、彼らの質問にどう答えてよいかわかりません。

預言者ハバククは、かつて神様に同じような質問をしました。彼は目の前で悲劇と闘争を目撃しましたが、すべてを理解することはできませんでした。悪者が正しい人を取り囲んでいることに疑問を感じ、律法が眠り、さばきがいつまでも行われないのはどうしてなのかと神様に尋ねました。

「どうしてですか」という難しい質問を神様にしても大丈夫です。そうすることで、悲劇的な出来事を自分の中で整理して理解できることもあります。私たちは自分の気持ちを表現する必要があり、そして神様以上にお頼りできるお方は他にはいません。「どうして」という疑問に囚われ続けなくていいし、私たちは無力ではないし、絶望することもあります。私たちにはイエス様がいてくださいます。私たちの生きる希望は、イエス様が私たちにしてくださったことに根ざしています。悪がはびこりがちなこの世界で、私たちが信号灯であり続けようように。

すべてのことを働かせて益としてくださる神様に私たちはお仕えしています。私たちは無力でも絶望的でもありません。

讃美歌 66

祈り 親愛なる神様。この暗い世界に目を留めるより、あなたの慈しみに目を留められますように。私たちが日々耳にする否定的で悪いニュースを覆す福音を感謝します。イエス様の御名においてお祈りします。アーメン。

テネシー州 ナッシュビル / ジョシュ・バーネット

4月10日(水)

なんという結末！

聖書朗読 ゼパニヤ書 3:14~20

事の終わりは、その初めにまさり、忍耐は、うぬぼれにまさる。

伝道者の書 7:8

クリスチャンなら自信を持ってこう言います。「聖書を読みましたから、最後がどのように終わるかも知っています」と。聖書は、この世における最初の人間が地上の楽園を失うことから始まります。しかし、最後は主を信じる者は、天国と呼ばれる地に入ると約束されています。そして、聖書全体を通して、聖霊は私たちに約束の地を垣間見させてくれます。

ゼパニヤ書には神様のさばき、特に最終的で普遍的な罪の報いについて書かれていますが、その一方で、永遠のいのちという希望の場面とともに贖われた者の祝福を描いています。もはや敵も、災害も、弱さも、病気も、非難も、恥も、追放もありません。神様を信じる者たちは、聖書の最後の章がどのように終わるかを忘れないように、意識を集中させて聖書を読み続けることが大事です。

義が悪に最終的な勝利をおさめるという

聖霊の預言ゆえに主を讃美します

主の御名がほめたたえられますように

—バートン・コフマン*

*編注: Church of Christ (キリストの教会) の説教者、教師、作家。

多くの注解書を著した。アビリオン・クリスチャン大学卒。

讃美歌 291

祈り 天のお父様。この世を支配されているイエス様の御名において、私たちが地上のものではなく、上にあるものに心を向けることができますように助けてください。イエス様の御名において。アーメン。

アラバマ州 トロイ / ジョージ・メリット



(1905-2006)

4月11日(木)

主のお導きがなければ

聖書朗読 ゼカリヤ書 4:1~10

『権力によらず、能力によらず、わたしの霊によって』と万軍の主は仰せられる。
ゼカリヤ 4:6

毎日忙しいですね。仕事に、ボランティア活動、奉仕活動にと日々働いています。ときには、それらに忙殺されているように感じることもさえます。ひとつのことを終えて、次のことに取りかかっても、実際には大して何も変わっていないように感じることもあります。私たちは日常生活のあらゆることをそつなくこなせると思っています。でも、計画を紙に書き出し、細心の注意を払って取り組んだとしても、常に期待どおりに物事が進むとは限りません。

『人は心に自分の道を思い巡らす。しかし、その人の歩みを確かなものにするのは主である。』(箴言16:9)と、聖書は思い起こさせてくれます。主との交わりがなければ、聖霊は私たちの歩みを導いてはくれません。計画のすべてにおいて神様のご臨在が不可欠です。主の御霊がなければ、人的資源、肉体労働、精神力は主のみわざを達成できないということを、私たちみんなが認識する必要があります。

私たちの成功も失敗も報酬も、私たちのすべてを神様にお捧げしましょう。神様は私たちを通してみこころを成し遂げられます。この世にあって私たちは神様の御手なのです。

讚美歌 Ⅱ41

祈り 親愛なる私の人生の主よ。自分がすること、話すこと、考えることのすべてを主におゆだねします。主が私に望まれる道に私を導いてください。イエス様の御名において。アーメン。

カリフォルニア州 インガルウッド
ウィリーH・トーマス

4月12日(金)

パリサイ人、サドカイ人、律法学者たち

聖書朗読 マタイ3:7~17

それなら、悔い改めにふさわしい実を結びなさい。 マタイ 3:8

あなたのことを批判する人がいたら、あなたどう反応しますか。私だったら、まず自分を弁護する体制に入ります。批判的な意見は聞きたくないの、いかに自分が正しいかを訴えます。自分に何か注意されるべき点があるかなど自分自身を振り返ることには目を背けたいです。自分の悪い点は見ないようにして、自分の正しさを証明したいのです。でも、私の心の声は、なんとやっているでしょう。あなたの心の声は、あなたと反対のことを言っていますか。そして、それは、主が私に言っているのでは？。

今日の聖書の箇所を見てみましょう。バプテスマのヨハネの伝道期間はわずかの期間でしたが、そこで多くの人々を導きました。多くの人々は言い訳を言わず、悔い改め、自分を低くしてバプテスマを受けました。しかし、パリサイ人、サドカイ人は、敵対心をもってヨハネの伝道を拒否しました。そして、ヨハネが宣告した裁きを受けました。

私たちも同じように、私たちの正しさを証明しようとする前に、自分を振り返り、吟味する必要があります。もしかしたら、私たちに罪の宣告をしたのは私たちの心の中にいる預言者(神のことばを預かる者)かもしれません。つまり、私の心の中のから湧き上がる私への批判は、私の心にいらっしゃる神様の御声でしょうか。主の御声が私に悔い改め、聖くなるように言って下さっているのかもしれない。さあ、心の声に耳を傾けましょう。

讚美歌 524

祈り 私たちの主よ、私たちの心を開き、あなたが悔い改めるように助けて下さい。貴方の御国において私たちが実を結ぶ決心をすることができま
すように。イエス様のお名前によって。アーメン。

コロラド州 デンバー / キャロライン ハンター

4月13日(土)

招きを拒否しないで下さい

聖書朗読 マタイ4:12~22

イエスは彼らに言われた。「わたしについて来なさい。あなたがたを、人間をとる漁師してあげよう。」
マタイ 4:19

なんという情景でしょう。四人の熟練した漁師が自分の仕事を辞めて、家族から離れて、イエス様に付いて行こうと決心したのです。彼らは以前イエス様のことを聞いたことがあったのでしょうか。私たちには分かりません。私たちが知っていることは、その時、彼らは網、舟を置いて、ヤコブとヨハネにおいては、自分たちの父親をも置いてイエス様に従ったのです。

イエス様は、今日でも、四人の漁師を招かれたように、私たちが招いて下さっています。イエス様は、人気のある哲学者や政治的運動や、今流行っていることをやるようにとは仰っていないのです。イエス様に従いなさいと言っています。十字架につけられて蘇られた主の御子であるイエス様に従いなさいと。もし、私たちがイエス様に従うならすべての事を備えて下さると仰っています。私たちの生きる目的、私たちの人生の意義を教えてください。この世をより良き世界とし、イエス様にお仕えし、歩んで行きましょう。私たちが主に従って生きることは、御父である神様に栄光を帰することです。

讚美歌 II 140

祈り ご在天のお父様、あなたの御子であるイエス様が私たちが招いて下さるお声を自分の耳で聴くことが出来ますようにして下さい。イエス様の招きに応じられるように私たちの心を開いて下さい。私たちの心がイエス様の愛の招きに速やかに応えられますように。あなたの招きに私たちがいつでも応じ従って行けるようにして下さい。今もいつも。イエス様のお名前によって。アーメン。

ノースカロライナ州 ダーハム
ポール L. ワトソン

4月14日(日)

神さまに愛されていますか？

聖書朗読 マタイ 5:1~12

「医者が必要とするのは丈夫な者ではなく、病人です。私は正しい人を招くためではなく、罪人を招いて、悔い改めさせるために来たのです。」

ルカ 5:31~32

山上の説教の冒頭にある、いわゆる八福の教えは、よく「こうなりなさい」、「こうしなさい」そうすれば、あなたは祝福されますというような命令に思われがちです。八福の教えに従うことが不可能だと思っている人々がそのように受け取ったのでしょ。

八福の教えには、何回かこう書かれています。「...者は幸いです。」この「幸いです」は、「なんと幸せなことです」とか「神様に愛されているのです」などと訳してみてもいかがでしょうか。この御国の良い知らせの宣言は、このようなことばかり始まっているのです。しなければならぬリストではなくて、私たちがどんなに自分のことを卑下しようとしても神様は私たちをどうしようもないほど大切に思っていますという宣言なのです。

八福の教えにおけるイエス様のお優しいことばによる宣言は、うだるような暑さのなかの一服の清涼剤なのです。それは、当時の宗教指導者が言っていたような手厳しく荒々しい命令ではないのです。イエス様は自信満々の人を招いていたのではなく、もうどうしようもないと思っている人、自分は神の前で取るに足りない者だと思っている人を求めていたのです。

その日イエス様の周りに集まった群衆はイエス様が求めていた人々でした。そこで、人々はイエス様の希望に満ちた、想像を超えるお話を聴いたのです。

讚美歌 243

祈り 私たちはあなたの教えをやることリストであり、それをこなせばいいなどと早合点しがちなときがあります。どうぞお許してください。そして、あなたの想像を超えた愛の深さに感謝します。イエス様のお名前により。アーメン。

カリフォルニア州マースト
ブルース W. ローグ